

# ナポリ *Napoli*

光と影をあわせもつ 南イタリア最大の都市

## まちあるきの考古学



「ナポリを見て死ね」  
彼らにはもう、思い残すことはないだろう…

ナポリの都市イメージには、光と影がついてまわります。  
明るい太陽の下、庶民は明るく陽気、一方で、経済は破綻し、街は汚れて治安も悪い。

光を放つのが、サンタ・ルチアから続く海岸沿いのリゾートマンションが建ち並ぶエリア。  
影を引きずるのが、チェントロ・ストリコと呼ばれるローマ植民地を起源とした中心市街地。

十数年前まで、ナポリ観光客といえば、ポンペイとカプリ島を見物したあと、サンタルチアのホテルでカンツォーネを聴きながらワインを飲むのが定番で、チェントロ・ストリコに足を踏み入れることはありませんでした。。

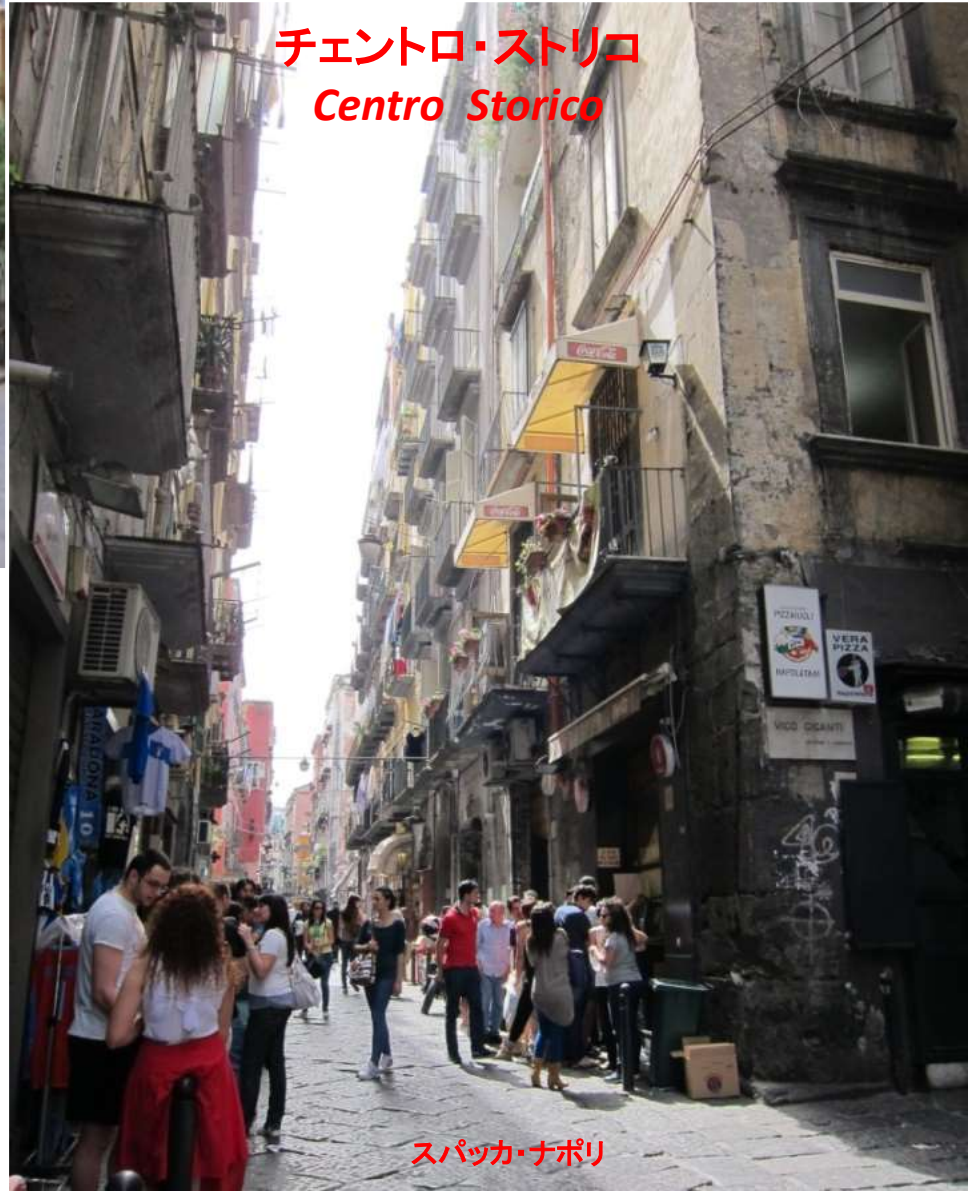


チェントロ・ストリコ





ナポリ駅からチェントロ・ストリコのホテルまでの道すがら  
タクシーからみた街の印象は、  
「喧噪」 叩き付ける様なクラクションとドライバーの大声  
「猥雑」 街の至るところにある落書き、ゴミ、剥げ落ちた壁  
「煤けた色」 外壁はカラフルだが、どれも煤けたように暗い



## チェントロ・ストリコ Centro Storico



建物は残らず落書きされ、路地はジメジメとうす暗く、煤けた外壁は廃墟のように見えます。それでも昔に比べて、相当改善されたようです。

2～30年前まで、チェントロ・ストリコは、観光客が安心して歩ける場所ではありませんでした。

メインストリートのスパッカ・ナポリは、南イタリアの貧困を象徴する低所得者の生活空間でしたが、今では、右のとおり、賑やかな観光地になっています。

スパッカ・ナポリ



## サンタ・ルチア *Santa Lucia*



サンタ・ルチアから西へつづく海岸沿いは、明るく開放的なナポリを象徴するエリアです。

緩やかに弧を描く海岸線に沿って、カラフルな色合いを競うように、リゾートマンションが建ち並びます。

そのデザインには、ある傾向があるようです。

どの建物も4~6階建ての直方体で、一層目が組積造風、二層目以上が吹き付けの外壁です。規則正しく並ぶ窓は縦長、太い外額縁が回り、ペディメントが付くものも多い。窓の一つひとつに鋳物製手摺のバルコニーが付き、花台で飾られています。観音開きの雨戸は緑色。シャッターもみられます。

どの建物も概ね同じ大きさのため、遠景からは、色とりどりのマッチ箱を並べたようにみえます。

ただ、ここの外壁の色も、煤けたように見えました。

アマルフィ海岸のポジターノのように、眩しくなるようなパステルカラーではありません。



## 少しマニアな ナポリの地理・歴史

ナポリの語源は古代ローマ時代のネオポリス(新都市の意)です。都市国家ローマが急速に拡大していくなか、イタリア半島の至るところにネオポリスは建設されたと思います。そのなかで、ナポリだけがその名を引き継ぎ今につづく大都市になったのには、地理的な必然性があったように思えます。

ナポリは、地中海の覇権を握るための重要な位置にあり、天然の良港と広い後背地をもっていました。

地勢的に恵まれた港町だったナポリは、それゆえに歴史のうねりに巻き込まれて、時々の勢力の支配を受けてきました。

5世紀の西ローマ帝国滅亡後、ゲルマン人国家を経てイスラム人に征服され、12世紀にはノルマン人によるナポリ王国が成立します。その後も、19世紀のイタリア王国統一まで、フランス、スペイン、オーストリア、再びスペインと、外国王家によるナポリ支配が続きました。

外敵はいつも地中海からやってきたようです。

ナポリ湾に突き出る「卵城」は、12世紀にノルマン人が建てた要塞です。13世紀にフランス人が建てた「ヌオーボ城」も海岸沿いにあります。

両城とも、地中海からの外敵からナポリ王宮を守るように配置されています。

ナポリは、カンピフレグレイ火山(Campi Flegrei)とヴェスビオス火山(Somma Vesuvius)の2つの火山に挟まれた場所にあります。



歴史的に幾度の噴火を繰り返してきた両火山に挟まれてもなお、2000年以上ものあいだ、繁栄してきたナポリは「運の良い」都市だといえます。

